

出題分析		
試験時間 100 分	配点 200 点*	大問数 3 題
分量 (昨年比較) [減少 同程度 増加]		難易度変化 (昨年比較) [易化 同程度 難化]
【概評】 同志社大学の英語の大問構成にはここ数年大きな変化は見られない。大問Ⅰ・Ⅱは長文読解で英文の分量はどちらも3ページ程度、設問としては、空所補充、同義選択、内容一致などがあり、下線部和訳がⅠ・Ⅱどちらかにある。大問Ⅲは会話文で、空所補充と1~2行程度の和文英訳が定番である。大問Ⅰ~Ⅲを通じて、英文自体および設問の難度は標準的であるが、英文のボリュームからすると、精度だけでなく相当のスピードが要求される。		

※理工学部は配点を100点満点に換算する。

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
I	長文読解 「時間を有効活用するための3つの方法」 ○語数：947語 (昨年) 829語	限りある時間を有効活用する方法について論じた文章。Dの語句整序の <i>at one's disposal</i> は、「(人)が自由に使える」という意味。Fの和訳は、似た意味を持つ <i>fulfilled</i> と <i>satisfied</i> をどのように訳し分けるかがポイント。	標準
II	長文読解 「海洋汚染に挑む技術」 ○語数：751語 (昨年) 1046語	深刻化するプラスチック汚染と、それに対抗する新技術を紹介した文章。Aの空所補充では、因果関係を示す(Y) <i>That's why</i> や、先行詞 <i>sources</i> を補足説明する(Z) <i>where</i> の用法を正確に見抜きたい。Bの同義選択は、(b) <i>breaking down</i> の直後の <i>into</i> に注目する。 <i>into</i> には、「変化」の意味合いがあり、 <i>plastic</i> → <i>microplastic</i> の流れが読めるので、1 <i>dissolving</i> 「分解されて」が正解。	標準
III	会話文 「日本への旅行から帰国したイギリス人の娘と父との電話での会話」 ○語数：422語 (昨年) 538語	日本への旅行から帰国したイギリス人の娘と父との電話での会話。Aの空所補充では、(a)には、6 <i>I got in last night.</i> が入るが、 <i>get in</i> で、「[空港などに] 到着する」という意味になる。その他の選択肢は、代名詞の指示内容をヒントに解く問題が複数あった。Bの英訳では、文末の「助かるわ」の表し方がポイントになっており、解答例では、関係代名詞の非制限用法を用いた。	標準

設問構成 (設問数・形式・内容)												
大問 番号	設問数	選択式						記述式				
		空所 補充	同義 選択	内容 把握	語句 整序	内容 一致	その他	和訳	英訳	自由 英作	内容 (理由) 説明	その他
I	6	3	8	3	1	3/8		1				
II	5	3	8	4	1	3/8						
III	2	8							1			

※「選択式」および「記述式」の欄の数値は、各設問内の小問数を表す。ただし、内容一致については、正答数/選択肢数を表している。

合格のための学習法

同志社大学の比較的長い英文を読み解くには、文法理解に裏打ちされた強靱な読解力を身につけることが重要になる。そのためには、1学期の間に基本文法をしっかりと理解しておこう。それと同時に、辞書も活用しながらじっくり英文を読む訓練を積んでおきたい。基本語彙も1学期の間に暗記し終えることが望ましい。夏以降は、実際に過去に出題された問題を使って、読解練習を行っていきこう。その際、スピードを意識するのではなく、意味を正確にとることを心がけてほしい。長い英文を深く意味を考えながら読む訓練を続けていけば、スピードは後から自然についてくる。じっくり腰を据えて取り組むことが重要だ。